吉川市地域福祉計画
アンケート調査結果について

《団体アンケート》

令和8年11月
吉川市

調査概要

- （１）調査の目的

  本調査は、第５次吉川市地域福祉計画の策定にあたり市内で活動する団体の日頃の状況や、地域福祉に対する考え方などを把握することを目的に実施しました。

- （２）調査項目

  ・団体概要

  ・団体の活動状況

  ・地域活動についての意見

- （３）調査期間

  ・令和７年１２月１２日から令和８年１月２３日の１か月

- （４）調査対象

  ・市内でボランティアや地域サロン等を行っている団体やＮＰＯ法人など（７８団体）

- （５）調査方法

  ・調査対象団体に対してアンケート用紙を発送。アンケート用紙の返送にて実施。

- （６）回収結果

  ・４９件　回答率：６２．８％

- （７）集計にあたって

  ・アンケート結果の比率は、百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%を前後する場合があります。

問１－１　団体名

No.	団体名	No.	団体名
1	NPO法人あおいはる	26	災害ボランティアなまずの会
2	ワークショップ楽えん	27	保4区なまらん会
3	みどりの会	28	特定非営利活動法人フリースペースPEACE
4	川藤友遊会	29	福祉楽団地域ケアよしかわ
5	老人福祉センターぱれっと	30	あじさい広場
6	言語サークルきんもくせい	31	よしかわ市発達を支える会ビリーブ
7	介護者カフェとことこ	32	輪っはっはサロン
8	NPO法人フォーユー研究会	33	吉川展示サークル”てん点”
9	ネオポリスふれあいサロン	34	吉川ドーナツの会
10	NPO法人たすけあい・よしかわ	35	命湧会（めいわくかい）
11	NPO法人吉川みらいのブカツ	36	ふふふ
12	シニア2丁目	37	スマイルソングサロン
13	高富健康サロン	38	みんな食堂たんぽぽ
14	あお空日和	39	つながるサロンきよみ野
15	保3区サロン　こんにち和	40	高久1区ふれあい健康サロン
16	下内川自治会	41	バルーンアート吉川
17	子育て広場プーさん	42	いこいの広場
18	コール吉川	43	吉川手話サークルさつき会
19	シャボン玉クラブ	44	きよみ野みんなの寺子屋
20	フレーシェルカフェ	45	高富町会　寺子屋
21	埼玉県生態系保護協会　吉川支部	46	演劇を楽しむ会　れんげ草
22	みんなおいでサロン	47	コールファミーユ
23	つくろい物ボランティアひなたぼっこ	48	モアステージ吉川なまらんサロン
24	喜楽サロン	49	吉川そば打ちめいじん会
25	ネオポリス寺子屋		

問２－１　団体の活動状況について

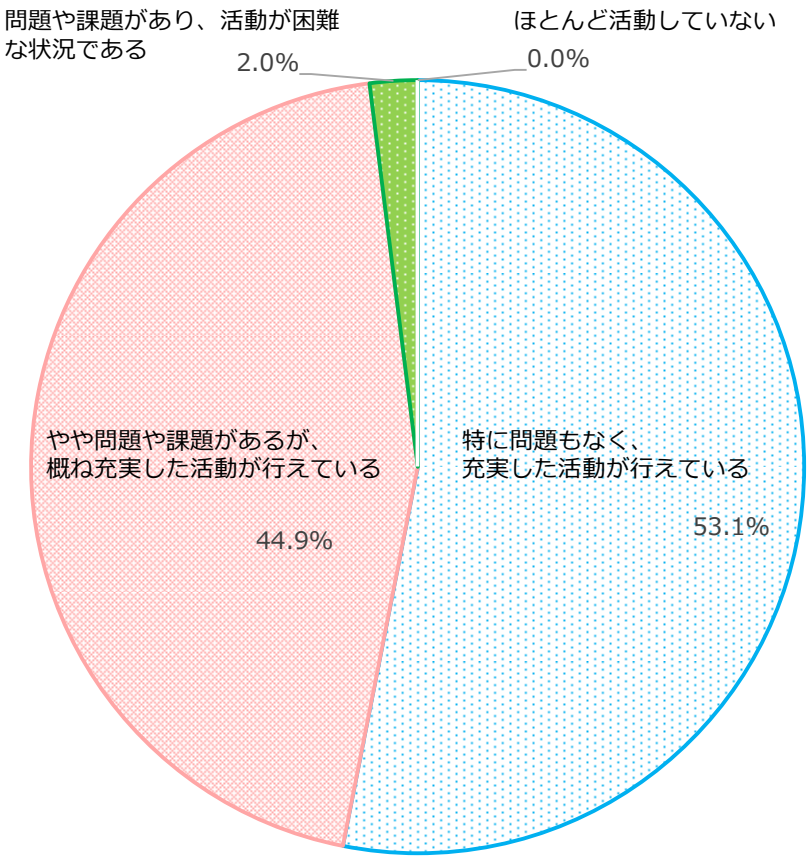
考察

「特に問題もなく、充実した活動が行えている」との回答が53.1%となり、充実した活動が行えている要素などについて、メンバー間の関係性を大切にすることや、個人を尊重した無理のない活動を行うことなどが挙げられました。
対して、「やや問題や課題があるが、概ね充実した活動が行えている」「問題や課題があり、活動が困難な状況である」「ほとんど活動していない」との回答が46.9%となり、団体が抱える問題などは、参加者の高齢化や、新規参加者の減少が多く、メンバーの固定化が窺える結果となりました。

単純集計結果①

区分	第５次		第４次	
	回答	割合	回答	割合
特に問題もなく、充実した活動が行えている	26	53.1%	14	35.9%
やや問題や課題があるが、概ね充実した活動が行えている	22	44.9%	18	46.2%
問題や課題があり、活動が困難な状況である	1	2.0%	4	10.3%
ほとんど活動していない	0	0.0%	3	7.7%
計	49	100%	39	100%

単純集計結果②



問２－２　充実した活動が行えている要素や秘訣

考察

参加者の負担にならないような活動や、人とのつながりを大事にしていることが充実した活動が行えている要素や秘訣と回答される団体が多くみられました。

設問	内容
充実した活動が行えている要素や秘訣	無理なく楽しめる余裕のある活動
	高齢者がほとんどで毎回食事作りに参加してもらっている。受け身の過ごし方でなく能動的で得意の分野（料理）なので皆イキイキして活動している。
	・参加される一人ひとりが楽しく過ごせるように心くばりをしながら接するように心がけています。 ・スタッフ間の関係性が良いので、場の雰囲気にも影響を与えていると思います
	指導者及びメンバーがお互いの人格を認め、トラブルもなくやっている。

問２－３・問２－４　活動するうえでの問題や課題
それらの問題や課題を解決するために必要だと思うこと。

考察

活動するうえでの問題や課題としては会員の高齢化や資金面、活動場所の少なさ等が多く挙げられています。
課題に対しての解決策として、他の団体との連携をとることや市に協力を仰ぐこと、等が挙げられています。

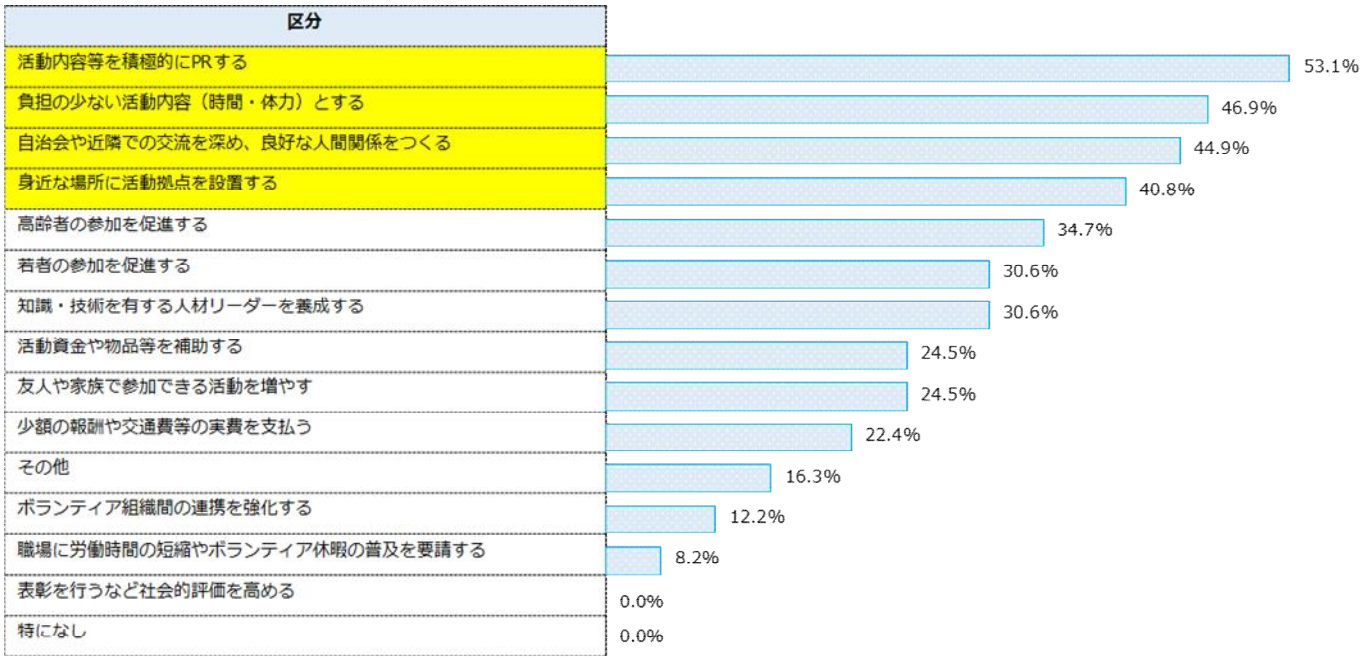
設問	内容
活動するうえでの問題や課題	会員の高齢化。若者の入会者が極めて少ない。サークルの活動がマンネリ化。活動場所が少ない。
	練習会場を予約することが難しくなっています。※会場利用料を無料にして頂く制度には活動を継続する上で大変助けられています。
	ボランティアの人材不足、年間90万円かかる費用への安定的な活動費の確保・訪問型での家庭支援サービス
	スタッフが高齢になり新たな加入も少ない、予算が限られている（打ち合わせ会場の利用にも利用料がかかる）
問題や課題を解決するために必要だと思うこと	市の協力のもとリスナーさんを増やしたい。福祉課だけではなく録音したCDを利用することを考えてほしい。
	子育てネットワークとつながり、若い世代へのバトンタッチを進める。
	団員の協力で自治会館やパレット（老人福祉センター）を借りるなどして、会場を確保している状況です。公民館施設、おあしす以外にも市民が利用できる場が増えることを望みます。
	保護者、学校へのPRを生涯学習課に協力していただいた、また、自治会、子ども会、施設、コンビニなどでＰＲしたが参加者が集まらなかったため、市の広報やＬＩＮＥアカウントなど他のＰＲ方法を検討できたらと思う。・子ども会や地域の子育てサークルの方などと交流し魅力的な内容を検討する。・社協などの協力を得て新たなボランティアの加入を目指す

問３－２　ボランティア活動やNPO活動など市民の自主的な活動をより活性化するために必要なこと

考察

ボランティア活動など、市民の自主的な活動をより活性化させるために必要なことは、「活動内容等を積極的にPRする」が53.1%と最も高く、次いで「負担の少ない活動内容（時間・体力）とする」が46.9%、「自治会や近隣での交流を深め、良好な人間関係をつくる」が44.9%、「身近な場所に活動拠点を設置する」が40.8%となりました。

単純集計結果①



問３－３・問３－４　様々な主体が増えるために必要なこと　参加意欲を高めるために有効なこと

考察

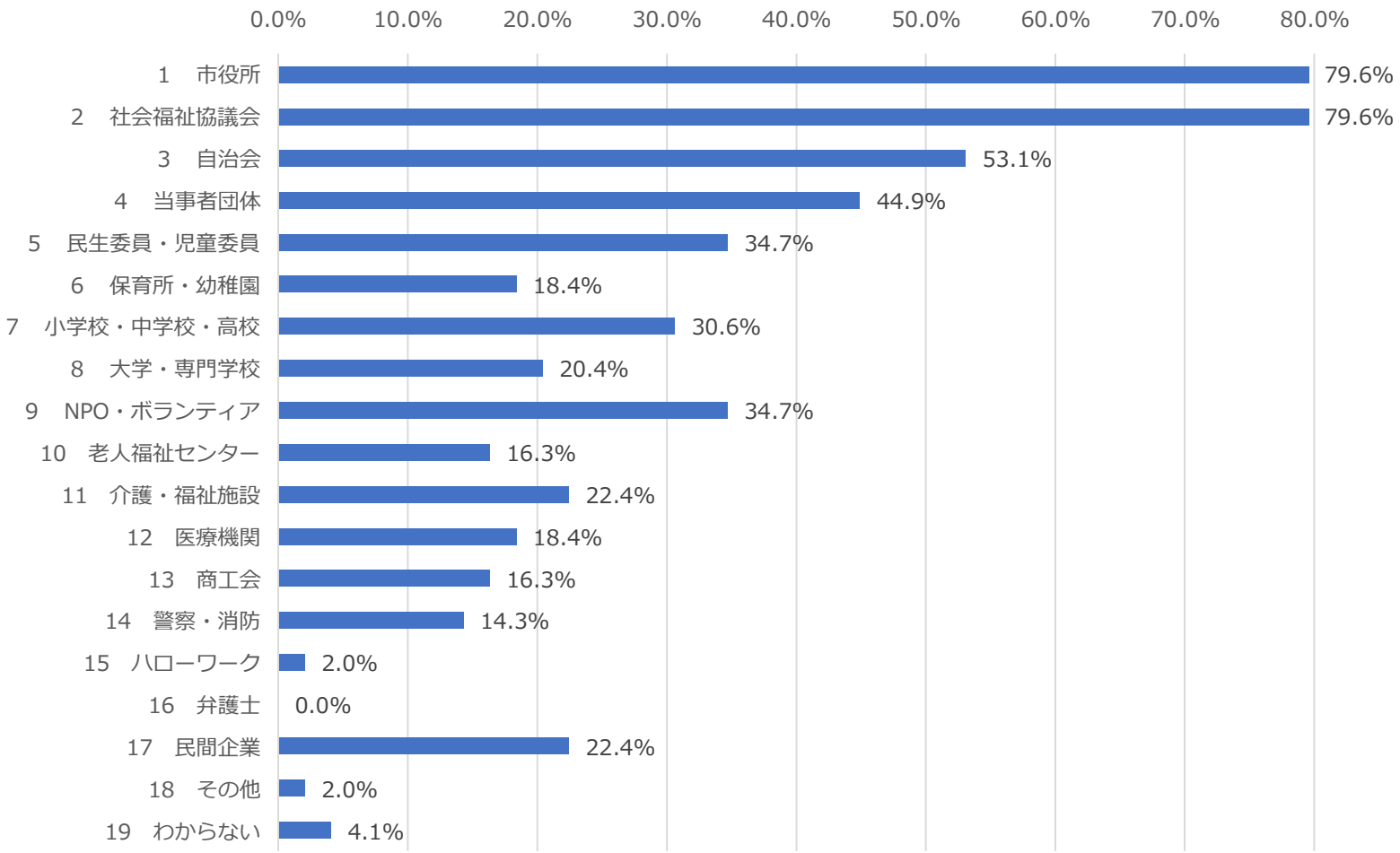
「ボランティア活動など様々な主体が増えるために必要なこと」や、「市民の参加意欲を高めるために有効なこと」については、主に活動内容のPR、活動に参加するメリットの明確化などが挙げられました。

設問	内容
ボランティア活動など様々な主体が増えるために必要なこと	活動に関心ない人には、活動することの具体的なメリットを伝えることが必要だと思います。
	地域ごとの場所が必要。空き家を活用するなどがいいと思う。
	どのような活動をおこなっているか、どんな方が参加しているのか、見える化が必要。
	市民の意識を変えるための広報活動
市民の参加意欲を高めるために有効なこと	こどもの頃から地域の祭りや行事に参加し楽しい経験を積み重ねることが大切と思います。
	自治会単位での地域協働作業を通して、常日頃から顔なじみになることが有効ではないでしょうか
	若い人たちの意見を積極的に取り入れ楽しい行事を増やしていく。
	ボランティア活動していることで市民の方々に喜ばれているということをアピールしたり広報紙などに紹介していく。

問３－５　地域福祉活動を推進するために、連携が必要だと思う機関

考察

市役所、社会福祉協議会と回答した団体が最も多く、次いで自治会、当事者団体となりました。PR周知活動や活動場所という点で市役所や社会福祉協議会が多く選ばれたものかと思われます。



問３－６　今後の福祉関連分野で取り組むべき施策

考察

福祉関連分野で特に取り組むべき施策について、「地域交流事業の促進」が最も多く42.9%、次いで「福祉の相談窓口などの整備・充実」「健康・体力づくりの推進」が34.7%となっていることから、地域の交流や福祉的な支援の充実が重要と捉えている傾向となりました。

単純集計結果①

